

粘葉本和漢朗詠集 卷上

倭漢朗詠集卷上

春

立春

早春

春興

春夜

子日

付若菜

三月三日

暮春

三月盡

閏三月

鶯

霞

雨

梅

付紅梅

柳

花

付落花

躑躅

藤

款冬

夏

更衣首夏 夏夜端午 納涼晚夏
花橘蓮 郭公 螢 蟬

秋

立秋 早秋 七夕 秋興 秋晚 秋夜

八月十五夜

付月

九月

付菊

九月盡 女郎花 菽

蘭 槿 前栽 紅葉

付落葉

鷹

付歸鷹

虫

鹿 露 霧 禱衣

冬

初冬 冬夜 歲暮 爐火 霜 冰

付春冰

雪 霰 佛名

春

立春

逐吹滯不再待芳菲之候
逐吹滯不再待芳菲之候

夏物希有露之恩

立春日内園
進花賦

池凍東頭風度解窓梅北面雪封寒
馬茂

どーのうらにさるけよよんらひとせ

をこわらやいもむいよとやいよ

柳至氣力除先動池有波文以盡開
白

今日不知誰計會春風喜水一時来
同上

夜向殘更寒聲盡春生香火曉爐燈

良春道

雨てひちくむさひみはのこわら

をさるたつけふのうさやこうらん
池をく

たふもつせにさくらこほりのひまこ
にうもいほうなみやもさればはな
みわしきはひあうなよゆよ
てそれつふつくしきれわよなり

春興

花下忘得因美菜樽前勸醉是春風

野草芳菲紅錦地遊絲綠乳若羅之

哥酒家と花家と是也一管紅上陽春白

山池及野池日曝紅錦之幅心柳及

青柳風苑鞠菴之孫
西夏花法孫
言名

著野庭救紅錦彌當天極殘紫羅襪

林中花錦時耳落花外遊絲束玉帶

笙歌夜月歌こ里

酒喜風変し情

さきさきまのたかみやみとははらうあれ
やさうらうとさしけふもさうさう
はつされほまれよさうわされさう
わさうらうのこころさうとはあさうれ
暮春

春夜

背燭共憐深夜月 暗花同惜少年春

白

さうらのされやみはあやなのさうの
しうらうさみさうれやはかうさ
躬極

子日

倚松樹以摩腰習風霜之難犯也和菜
羹而啜以期氣味之克調也
常

倚松根摩膏子季之翠子満を朽
梅を梅双二月之雪落衣 も家

竹のひまをうれつよこころのなうりせ 二

ちとせうくちまよわし 一 清もけよよ 二

わはまよみよひうれくよまつよわつむ 結直

福のひまに 一 めつろく人のひめこまろ 二

ひくそやちよあつけをまた 一 清心

若菜

野中若菜甚事権之蕙心鑑下和

義信人属之葵指 菫

あまをうらはわのめつあせむ 二 た

をふれあはたのきはるもあやめ
もろたいはわれしあましめこれ
よきよのふもふもゆいハあつ、赤人
ゆいてみね人もれとさるめれ
うさみよつめろわれわたり 骨々

三月三日 付桃

春来遍是桃花水不辨仙源何處尋 王維

春之暮月々之三朝天醉于花桃李

盛也我后一日之澤万機之餘曲水雖

遙遺塵雖絶書巴字而知地势思魏文

以翫風流盖志之所之謹上小序 菅

煖霞亭上應同戶桃李淺深似勸盃 菅

水成巴字初三日源起周年後幾霜

萬茂

礮石遲來心竊待牽流過過手先渡

雅規

夜雨偷濕曾波之眼新嬌曉風緩吹不

言之口先咲

桃始華賦
紀

みちとせにならうといふも、れいよ
わをいそぐけりよあひわめよんわ

暮春

拂水柳花千万點隔樓鶯舌兩三聲

元

侶翅沙鷗潮落曉亂絲野馬草深春

菅

人無更少時須惜年不常春酒莫空

野

劉白若知今日好應言此處不言何

順

いふらよまゝに候つよこひはむほれ

とまのみにてくらしきるもよまきりぬ

三月盡

笛春と不住春歸人寄洛賦風と不

定風起花蕭索白

竹院君閑銷永日花言子我醉送残春白

惆悵春歸笛不得紫藤花下漸黃昏白

送春不用動舟車唯別殘鷺馬与落花菅

若使韶光知我意今宵旅宿在詩家同上

笛春不用笑城園花落隨風香入雲尊敬

けしとののそきうををあらはねをよたうん水垣

ふつとやそきそののつたかそ

さしとをれりりわつとけゆとをこの

ふつとをいそふなりわつとをた若く

またもふらふらとよりにおるさうあわれ
かわらぬまうあはれさうもあつた
んを

同三月

廣竹卿

今年同在春三月刺見金陵一月花

帰谿歌鸞更逗留於孤雲之踏辞

林舞際逢翩翩於一月之花

順

花海陶根無益悔多期入谷定互初

藤滋藤

せうらきりきりはれつとたよも
ひとのこころよあわれやまもつ
伊勢

鸞

鷄既鳴兮忠臣待且鸞未出兮遺賢

在谷
鳳為王賦

誰家碧樹啼鶯啼而一雁帶秋無葉也
華堂昔曾見而珠簾未卷

曉賦

因霧山鷺啼尚少穿沙葦葉繁繞分元
臺頭有酒嘗呼客水面無聲風洗池
管聲誘引梨花下字多物面生水色白
感同類於相求離鳴去鷹之應喜轉會

異氣而終混就吟魚躍之伴曉帝

遊好之神龍收精撫亂於烹栢周郎

之著類勅顧百矣於新也

昔三心

新詠如今穿宿雪慮有及采香雲

昔

西樓月落花開曲中房燈紗行裏香

昔三

あらまのさーたちるあーこよわま

たらしむのはうらみまのこころ 事は

あそびまじりさるるたしそらにこころひま

れもつこさままたぬひとはあら あきらめ

うらみまのこころれうらさはゆいこ

わやまきこいしそらさし 中務

霞

霧光晴はぬれ大なる情来頼に相 白

縹沙雪の点三分許誇樹霧鏡半如珠 昔

時を来とけ つさるうし

らまののちまたにま 立春日 八丸

けさうほみ さるね 清にみよしの

うの ゆきは わつ

あをひきんこねのしらゆよむらさき
もろあつをみけしやうまにたわ

雨

或垂花下潜增 晏子之悲時 舞鬢間

晴動潘郎之思

密雨散絲賦

長樂鐘聲花外盡 龍池柳色雨中深

李橋

養得自為花 父母洗來寧 弁樂君臣

紀

花新聞日初陽 潤鳥老歸時 薄暮陰

普三品

斜脚暖風先扇 雲暗初日未晴程

併況

もろあつをみけしやうまにたわ
あをひきんこねのしらゆよむらさき
もろあつをみけしやうまにたわ

いととしてわづらふたよりとらふ

何事

梅

白行落梅浮澗水黃梢新柳出城牆

白

查孝棟

梅花帶雪飛上柳色和煇入酒中

漸薰脫雪新村素偷綻春風未扇兒

村上
内繁

青絲線出陶門柳白玉裝成庾嶺梅

江相公

五嶺蒼々雲徃來但憐大庾萬株梅

誰言春色從東到露暖南枝花始開

管見

いづしと志はしにうきやわらわのわ

いづしのむめははれやまにまきり 安倍廣庵

わつやよみをむらひしものをもよ

きれんぞはゆゑのわれを素人

ふれんぞはゆゑのわれを素人

やがてすみわたるはらう
和歌集

红梅

梅含鶏舌魚紅氣江矣瓊花蒂碧石文

元

浅紅鮮娟仙方之雪媿之深香芳郁

妓鏡之煖讓董

正通

有迄易系残雪底无情難計夕陽中

中世王

仙回風生空歟雪野鑪火暖未揚煙

唐名

よみぬらうくわりのまをまゝめれ花

いらさもをともくひとてきり

友男

いらさもはかりひもいれすむのそれつ

ねをらねうによあつてそみる

萬山院山家

柳

林鷺何處吟
第植牆柳誰家
曝麴磨白

漸欲拂他騎
馬客未多遮
得上橋人白

巫女廟花紅
似粉眠君村
柳翠於眉白

誠知老去風
情少見此字
無一句詩白

大庾嶺之梅
早落誰同粉
粧直廬山

之杏未開豈
趁紅艷江納言

雲擎紅鏡扶
棗日春嬌黃
珠嬾柳屋ほ中書

舊宅迎晴庭
月暗陸池逐
日水煙深ほ中書

潭心月泛交
枝桂岸口風
來混菜蘋菅品

あをやまのい
とよわうらう
けさし舞

ふさふさして
さればふら
らひりたる舞

さうさうれを
しとわなま
よれよふいと

れいものしんよなわよふらうり
あまやきふりやゆよこもれり
はこよのうらよふいんあせわけり
中納言
並補

花

付落花

花明上苑輕軒馳九陌之塵猿叫空山
斜月望子巖之路
雨賦

池色溶々藍染水花光焰々火燒春
白

遙見人家花便入不論貴賤与親疎
白

當日堂風高似子顆方取之玉海枝

沫浪表裏一入再入之
紅
花光浮水上
首三品

誰謂水無心浩蕩恰似兮波更色澄渾
花不語難漾激兮影動脣
同上

欲謂之水則漢女施粉之貌清莹多

謂之花亦蜀人濯文之貌榮燦

同上

孫自何孫唯言兩裁世之模但去風

首意

花飛如錦幾落粧殘暮去風未覺相

如殘喜風襟上巧北唯孫之孫美芳

善的

眩美菊那裁疎錦耳博素城調束第

相規

世中たさく襟たさくわさはくあ

くらはのこくらあ

初や東姑者好みそら仁る百人

形恒

地更たふ世乃ち亦恋く永る遊死

みくのまや人よの者らむ山梅を

いよにまわくい香川とてりさ

素性

落花

落花不语寄春愁
流水无心自入池

朝语落花相伴出
暮随飞鸟一时归

春归面与东窗入
酣畅之筵晚景愁

醉余诗酒诵之座

江

落花狼藉风狂夜
啼鸟惊啼雨打时

轻暖风烟臭
樵薪小榻娃袖
顾盼流香

斜云雁去
春愁
秋波
七
世

可恨
心
志
雅
社
奴
曾
亦
尔
是
尔

尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔

尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔
尔

藤

懐望烈恩三月盡紫藤花落香冥々白
紫藤露底疎花多葉竹梅中堂芳名記相現

たふのうらにそくせんりほふ、ちれこ
をそしてゆむひわひよあ

徳丸

あまけなるうたのなごまあわれと
もか、れつふちのあまてちつ、れ母々々

躑躅

晚薰尚用紅澗濁秋房初結白芙蓉白

夜遊人多尋末把空を空家夜折はる順

あまのいつともよけのやあれいもつ、し
いそねもくあれ恋しとれを

歎冬

點着特英天有意款冬誤院言去風
書言有春相收檢詔帛無文未奉行

保胤

うはれくみれひうきたにうをみこ

厚見如里

ていよわちるらんわもふよあまれ

わすの夜一山吹けひとくうまちり

れこなんきるのるまよ 魚巻

夏

更衣

背壁残燈経宿焰用箱衣带隔年香

白

生衣欲待家人著宿釀當招邑老酣

讚州作

菅

きしのいろよわめーたよとのひさる
まをいふもいふつしよくもよもあつた

首夏

甕頭竹葉經書契階底蓋薇入夏用白

苔生石面極石徑岸出池心小蓋諫物初安典

わやあのみまねやもろをつたはらん

たろよにたりをみゆるうのをれ順

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夜夜露白

風生竹葉經書契階底蓋薇入夏用白

きこわふ困菅度ほ涼更杯白月明初白

たろのよをわわよあなわといひおよ志

ひとばものこもやたとはせむをい
わともはたなまやせむのみにし
もひとやわはそあうかねつも
難者乃とみ者あつ東漢書は本度
一昔如斯く忠を侍意下一河をる
志乃、免

端午

有時當戸危身立無意故園任脚行
其人

わつこもとけふよりあひらるあやめらさ

たひおらるやあらるなふえん
頼基

まじふまてよあふはらひーあやめらさ

けふわねとのほおとみうれ
能宣

納涼

青苔地上銷殘雨 緑樹陰前逐晚涼 白

露華清露正 夜清風襟着 澆先秋涼 白

不是祿房無契 到但結心 却見身涼 白

珊瑚好 圓香之 扇代岸 風之長

忘燕昭王 拍涼之 珠尚沙 月之自得 白

卧見新 齒信水 停之 吟古集 納涼詩 節

池冷水 無三伏 夏松高 風有一聲 秋 美の

すしやとらむむらとにむすれ

はまのちかふのたふさふいれつのもれ

したくろくさみらにあふくおふふされ

むきふらつものてとくまきしよ 中務

まはるるのいもわれみはむすひて
なれいせし ちかひのいせし

晩夏

竹亭陰舍偏つと夏水檻風涼不待秋
いづこはらあまよふあまのしづゆと
つひつはらむむとあまらん

ゆふとともよふとあまふとみとちと
けふはらよとむとはいふとわ

橘花

雪桐子似しる重梅桐架戦水風涼

枝整金鈴喜る及花童紫葺凱風程

七つよふはこれとちけなものをとらん

はむうのひとみ少てのふまを
かといさしむらむらばたのこまめ
てなまけはむう一人やむらむら

蓮

風荷老葉蕭條綠水藜殘花寄淺紅白

葉展影疏菊砌月花香散入蒼風白

燈屏象扇清風曉水泛紅衣白露秋汗渾

岸竹條位夜香宿濼為葉動是魚遊至云

孫河更負吳山曲便是吾家庭下花子孫差

鐘為頰目佛伽能知沙花中植善根如雲

こまけすそのにこらうに水可ねこらと

てなまけはむらむら一人やむらむら

豈積雪片於床頭

秋螢照供賦

山經卷裏疑過岫海賦篇中似宿流

同前
直轄

らさあつくあれはるやぶのささしひ
れつせにすこねはをさるなりなわ
はしめらんかうれねもの冬ぬつし
のみよりあまれりあつひなりなわ

蟬

遅く兮春日玉甃暖兮温泉溢嬌く

兮秋風山蟬鳴兮宮樹紅

悉言高
白

予峯兮詠合梅雨五月蟬聲送夏秋

李加祐

冬下朔並素菟兮蟬鳴黃葉深兮秋

許暉

冬冬黃何猶先少不是蟬出客意悲

昔

歳去歳来聴不変莫言秋後逆为春一記
なほや一雨のこころのこすちやうつるれを
みらよみせむのこころとよこゆる
れをみよひとともとつねにみすをね
をいふむのたれつそつたを重光大納言

扇

盛夏不銷雪終年無盡風引秋生手

裏藏月入懷中

白

不期夜漏初系後唯翫秋風未至前

菅原

あよれうは、一は、しよ、れをたよ

七夕扇合

河ふよののせをいれつそよ

中務

あよのつらあよしむせよもつれ

あはれをみわらさるるせしよの心志
同書
元晴

まよつてよまのほろあはれをせられ

それひらねるをもあらうとふたも
芳

秋

立秋

蕭颯涼風与悴鬚誰教計會一時秋
白

鷓漸散間秋色少鯉常物更晚存後
依流

あはれ、ねとめらほせやうにみえりとも

うせのたともおたさるうれぬる
敏行

うらほをよしののちえりよこのそら

るあはれをうらめにならねとみえり

早秋

但喜暑随三伏去不知秋送二毛来

白

槐花雨溼新秋地桐葉風涼暮夜天

白

炎景剌殘衣尚重曉涼借外簾先知

紀

あよももやいふともあはれとみわたり

えとくあつせはくまことせむも志貴身子

七夕

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多

白

二星遙逢未叙別緒依之恨五更物

明頻驚涼風飒之聲

羨材

露宿夜別海珠也落空是殘粧鬢未成

首

風從時來聲跡忽露及明朝渡石禁

去衣曳浪霧意涵り燭淚涼月多清
詞化激波隆且迷心期日月多ぬ燥

浦帖 普三

あまのうはとあまのわたりあまの

もよみうしりてはとよよふあて 九

ひとせにひさよと村としとしきた
れあひみむあまのわたりあまの

舞之

うしとにあまはすれとあまの
のあつよれうまふすれうりたる

躬恒

秋興

林間煖酒焼紅葉石上頌詩栢緑苔

白

樽里眇茫雪水冷高き清脆昔弦秋

白

大庭曰晴心物悲就中腸断是秋天

白

物色自堪傷客意宜將愁字作秋心野

由来感思在秋天多被菊時苦物素

才一傷心何處宿竹風鳴葉月明白

蜀茶滌忘浮花味持疎衫傳檮雪聲相如

うつらひといそれのつれあよけきを

たもふひとこもみつるふれ丹比國人

あよけのほゆふふれふふたのゆ義孝存

なまふれうさうせをよめ

秋晚

相思夕上松臺立蒼思蟬聲滿耳秋白

望山出月猶藏影聽砌瓦泉轉信聲音京

ささくやまふもとのつれをれす

ほのろもみゆるあふれゆふくれ

秋夜

秋夜長くく無眠天不明朧し残燈背

壁影着く暗雨打窓を上陽人

遅く鐘漏初長夜耿し星河を曙天白

驚子楼中霜月夜秋来只為一人長白

芳子露涼人乞及終宵雪を月明前聖

蓋庭洲裏孤舟夢梅柳雪及万里心秋夜名古名

あしひまのやまののをわくわくの

なつかしきまをひとわくもほむ允

むはくともまたつきほろよあなよ今り

つらもあよれなうしとくも冬躬恒

十五夜 付月

秦甸之一千餘里凜々冰鋪漢家之三
十二子澆し粉綉

疎錦機中已解相思之字橋衣砧上傷
添怨別之聲 已上十五夜也

三子夜中新月色二子里外故人心 白

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠 白

十二迴中無勝於此夕之好千万里外

皆爭於吾家之光 紀

碧浪金波三五初秋風計會似空虛 白

自疑荷葉凝霜早人導蘆花遇雨餘

岸白還迷松上鶴潭靺可尖藻中魚

瑤池便是尋常号此夜清光玉不如

今膏一滴秋風露玉連三更冷漢雲

楊貴妃歸唐帝幸秦夫人去漢皇情

みつれにもたててさうなみそ

それとよき雨もなうけわたる

月

誰人隴外久征戎何處庭前新別離

秋水漲來似去連夜雲收盡月仍遲

不醉黔中爭去得磨圍山月正蒼

天山不弁何年雪合浦魚鮪迷舊日珠

欲和豐嶺鐘聲否其奈蕭蕭鶯燕何

鄉渡教行征戍客棹歌一曲釣漁步

涼我

管音

順

白

野展郎

白

統理平

中書王

係胤

あふよけをらりきけみれをすすめし
うきのおもひにぞしつととし
安政仲丸

しらくもよさなうらつたよあめの
うけさくみゆるあよむあめのみ

よよめは身とのむきふとともわれと
きつよにいとひなりあつらん
なやま

九日 付菊

驚知社日辞集玄菊為重陽冒雨用
李端

採故事於漢武則赤萸插言人之右
君

憲記於魏文之芙蓉花助彭祖之術

先三途兮吹其花如曉星之轉河漢引

十糸兮蕩玄氣疑秋雪之迴洛川

谷水洗花汲下流而得上壽者三十餘

家地脈和味食日精而延年頽者五百

箇歲 已上記

わろ そのまゝに 一から洗ゆけよと

よいよしたまひてふちとならん 中勢

菊

霜蓬老鬢三分白露菊新花一半黃 白

不是花中偏愛菊此花開後更無花 元

荒淫名者梨松板之は凋枯景子物

嘲之 茶久先飯 此 時 榮

梨孫村岡皆淫屠陶家兒子不垂堂 善相

葉羞自如ぬ依着梅難不泣る七生 伴流

葉蒼蒼嵐捲紫ほ葉業酒力照お中

善三

ひせいのこのもれうらみくみさよは

あまふほー糸あやまたれなふ

敏行

こらんあてにさらはやきさむけつもの

たきいれとさぞろーとさくれをれ

躬恒

九月盡

縱以嶠函為固難留蕭翠於雲衢縱令

孟賁而追何遮爽籟於風境

順

頭目縱隨禪客乞以秋弛与太應難

順

文峯素鬻白駒景詞海艤舟紅葉聲

以

やまをひーあよしをよわとつらつり

八束

とこよのはいとおろろあきし

うれてゆくあよれだにみよれども
もれをわのもゆひのーしう糸ありたる 糸を

女郎花

花色如燕粟借呼為女郎同名哉

乞契借老乞乞表歩首似霜 順

をみながらー木斬るれつるやうりせ

はあやいらあよれをやうり 竹葉

りもろあうーみるよーんはりそ

あていとしむーのあよれ 清徳公

萩

曉天海鹿鳴花始茂百般攀折一時晴

あよれしよもろよかるをれーなほをれー

妙もやけり雨のふたけておぼふ
うづらさむいふにきしよあまはよ
にきれぬもつらうもむらつゆれいせ
あまのくわさよのうしよささるるせとよ
さうのむらつらうはしとれ元種

蘭

前頭更有蕭條物老菊衰葉三為葉白
枯草色無影半浮雲掩而忽與蕭條
豈不芳乎秋風吹而先歎葱裴陸
中書
凝如鳳女顏施粉滴似鏡人眩泣珠者
曲驚楚宮秋絃韻夢新並好曉枕薰畫粉
わーらねうらふもほつれあまのくに

あまのわさよかかきしんはつよふも素性

種

杉樹子年終号朽栢花百自る榮白

来而不留薤壠有拂展之云移去而

不返栢難言授言之花
頌文
中書

に平つれれづのしむあさよわれ

たもあたにみゆるあさよほのまれ

あまのほをれよさうのまれとけうん

ふむひとまらん花はりしみこころ道に為

前栽

多見栽花悦目儔先时勝善待再植

自号周宇家僮僮喜樹春栽秋予秋昔三

困思素汝花紅日正是當吾鬢白時 係胤

曾此種更思元亮ぬ是花時借甚言 首

ちりききしたすきしと亦おもふうし

よわいもとわつわつといひつのをこれ 船板

けしよぞわものさおありふしとゆれた

らたもいこなうむとすらむ

紅葉

不堪紅葉青苔地又是涼風言為云 白

黃纒纒林言し有葉碧瑠璃水浄無風 白

洞中清浅瑠璃水庭上菊條結彌林 係胤

外物初醒松沼邊餘波合カ録江勢 以

しらつゆもしとれそいこもらわよ

さうはのころすうつよになわさく
むらいれりよとみろせほやま
れきく下のもみらすやうわまは

清正

落葉

三秋而言漏正長空階雨滴万里而鄉
何在落葉言涼

結賦

城柳宮槐漫搖落愁石外美人心

白

秋庭不掃携藤杖困踏梧桐黃葉行

白

梧楸影中一聲之雨空澗鷓鴣背上數

片之紅纒殘

順

樵蕪徑及杖穿朱買臣之衣隱逸優遊

履踏葛稚仙之藥

落葉山中踏

相如

逐夜光多吳苑月每朝
少澤林風

隨風落葉金蒲葉
賤石苑泉與雅琴

順

あはれはもみちはなつるかた
あはれは

下のあはれをわすれ
あはれ

あはれつとれと
あはれひのも

りたのあはれ
あはれ

みるひともし
あはれ

もあはれは
あはれ

鷹 付帰鷹

万里人南去
三秋鷹北飛
不知何歲月

得与汝同歸
文選

尋陽江色潮添
滿彭蠡秋聲
鷹引來

劉勰

四五原山粧雨色兩三行鷹點雲秋 松菊坊

虚弓難避未拋疑於上弦之月照寂

芳名建稻米流於下流之水 心 は相公

鷹飛碧落書青紙年將雪林破鏡樣 首

雲衣范外霧中贈凡樽滿湘浪上舟 は中書

あふうのせまはつるわねあふくゆなる

うったまうをさつけてさつらむ 友別

山腰婦鷹斜牽帶水面新虹未展巾 松存中

まろく、原みくつをみすくゆくわ

は、いよせとにすろわ 伊勢

虫

切く暗窓下嚶く深草中秋天思婦心

多夜愁人耳白

霜华欲枯虫思苦
风枝未定鸟栖难白

床嫌短膝蚕声闹
壁欲穿心鼠迹穿望

山馆雨时鸣自暗
野亭风处残梧声正行

藜边忽远风闻暗
壁底吟幽月色寒顺

いよこむとされたのあふむあふまのよまあ

うかおつてまつむしのめく

起るゝゝぬいそふ人如く
みりや又いそ支

乃と深程のそく
枝母元は日暮に未

料社有素性

鹿

蒼苔路滑僧歸寺
紅葉声乾若在林温庭筠

暗遣食華身色變更隨加草徳風来

白鹿紀

もみぢをわさよはのたのよをん

うはおのれさまうてやあよをん

ゆ希はらよとをららのやあよをん

れとよのうらよやあよはらよをん

露

可憐九月初三夜露似玉珠月似弓

霧滿葉葉寒玉白風銜杉葉雅琴清

ささやしのあまよつをのあよをん

うらよをんうらよをんうらよをん

露

竹露曉籠銜嶺月頻風緩送る江表

隆慈夕霧埋人枕猶愛朝雲出馬鞍 江相公

うけよりののふもとをこめてしをねれハ

あらよそあよれやまはみまける涼美文

たのふあれうしよとなれさつあよりの

てほのやまをこらこらむむ友外

栲衣

八月九月正長夜千聲万聲無了時 白

北斗星前栲衣鷹南栲月下栲衣衣

栲衣更曉然星月各裁物秋衣の言室寧 葛衣

裁出子逆也短製造然言ふ若御用 衣袴

風底香花菱袖第月高栲衣衣肩位

季この思為秋存衣し出衣るお曉粒 上月

うらうらもうは...
みまねぬ人をもさらしに...
れ...

冬

初冬

十月江南天氣好
可憐冬景似春華

白

四時牢落三分減
萬物蹉跎過半凋

醍醐
泚裴

床上卷收青竹簟
匣中用出白綿衣

菅

ふみれつよみふらんみきため

たかきしうれふゆのいめなりける

冬夜

一盞寒燈雪外夜
數盞溫耐雪中春

年光自向燈前盡
客思唯從枕上生

尊教

松もひぐねいもりゆきけしゆあよ
わつそりせむむみちよりいへなり

尊教

歲暮

寒流帶月洗如鏡
夕吹和霜水似刀

白

風雲易向人言
雪來月影增老態

良妻

ゆきもしれをくもあつれす
みくもけりもれねとけり

爐火

黃醅綠醕逢冬喫
絳帳紅爐逐夜煎

白

素無雙字跡
無字脫兼風光被火逐

首三

此大夜燄燄花樹取
對來終夜有喜情

同上

多時縱醉夢花下近日那能默
天色補眠
うつみひの
もくくに
葉平

霜

万物秋霜能壞色四時冬日
霜凋年
白
三秋岸雪花初白一夜林
霜染葉紅
溫庭筠

筆空著
或添孤婦之砧
上山涼感
動先使
皓之
積色
紀
青女可霜

君子
秋涼音不
整
老翁年晚
鬢相驚
苦
聲
已
斷
華言
轉
步
初
驚
萬
籟
人
苦

晨積
瓦溝
響
夏
色
夜寒
華表
鶴
香
聲
紀
う
ま
ま
む
む
み
は
せ
あ
ま
は
さ
し
し
し
し

たぐはくもあははしき
雪

曉入梁王之苑雪滿群山夜登庾公之

樓存明矣

白賦

銀河沙漲三千里梅嶺花柳一萬株

白

雪似鷲毛飛散亂人披鷲氈立徘徊

白

或逐風不返如振群鷲々々毛心當

晴猶疎糝緩亦和々々

後

去雪也
紀

翅似得羣梅浦鷲心宿京真椽舟人

邑上
片碧

立於庭上及夕鷲生在爐色色不飛昔

珣女道中秋扇色持乞日卷上夜無聲

昔教

みやうはらけりてふらけりてふらけりてふらけり

うのふにありあはら

みぎのふのふにありあはら

ふのふにありあはら 是別

あはらふのふにありあはら

ふのふにありあはら

ふのふにありあはら 友別

氷 付春歌

氷封水面無浪雪然林及見花 昔

霜妨鶉凍雪無露水結松疑落 相如

木ほふらのつらふにありあはら

はらふのふにありあはら

氷消見水多松地雪膏望山巻入楼 白

氷消漢之夜
旒霜雪
忠榮日
不瓦板
尊教

胡塞誰能全
使節呼池
還恐失臣忠
相規

やまのけの
みよをま
れりさ
らうのせ
よ
こまに
ほりは
けを
とらむ

霰

摩牙米
皴
龍頷珠
投
顛
寒
管

とや
海
下
は
あ
れ
さ
う
程

東
夜
あ
れ
る
お
ね
き
み
ち
の
考
ら
い
や
務

川
よ
う
り
米
あ

佛名

香
火
一
燵
燈
一
草
白
双
夜
礼
佛
名
經
白

吾
自
採
心
無
用
火
草
并
台
孝
不
因
善
若

阿羅壹滿乃東く母久る無は者
久里け無き法美毛深有羅取奈

本名 — 志ねらむ 魚巻

うお少れさあつみよ法とつと
つとをたうりむうあをいよいそ
くらむ

倭漢抄巻上